

日本人の心で世界平和へ

Rahmana Nur Arini (ラーマナ ヌル アリニ)

日本と他の国の歴史のうち、日本人が知らないものはたくさんあると思う。その歴史の一つが、インドネシアと日本の歴史である。インドネシアと日本との間には、短いながらも苦難を乗り越えた歴史があるのだ。殆どのインドネシア人は知っているが、なぜか、日本人の殆どは知らないようだ。

日本はインドネシアの歴史の中で重要な存在である。中学校と高校のインドネシア史の教科書にはインドネシアが日本の植民地にされたことが述べられていて、皆学校で勉強している。教科書には、日本は最初に石油をはじめとする天然資源の確保のため、軍政に現地住民の協力をとりつける必要があり、東南アジア、そしてインドネシアまで行ったと書かれている。当時インドネシアは350年間オランダの植民地にされていたが、日本軍がオランダと戦い、インドネシアを日本軍の軍地にしたそうだ。それだけではなく、インドネシアの人々にも色々なことを教えてくれたという。日本は学校でオランダ語しか使えないきまりだったのを新たにインドネシア語と日本語に変えたり、将来のインドネシア独立を見越して、インドネシア人の若者からなる PETA という祖国独立義勇軍を組織し、日本軍式の軍事教練を施したりしてくれた。しかし、良いこともあれば、悪いこともあった。戦争の準備のために大体40万から100万ぐらいの人々が無理に「労務者」として働かされた。そして2万のインドネシアの女性たちは従軍慰安婦にされたらしい。更にたくさんのインドネシア人が残酷に殺害されたという。よって、オランダに植民地にされていた350年間より、日本に植民地にされていた3年半のほうが、インドネシアはもっと苦しかったと言われている。インドネシアの教科書には日本軍に対しての各地域軍の戦いや、インドネシアの独立の準備など、日本と関わる歴史がまだまだたくさん述べられている。しかしその歴史はどこの日本の教科書でも述べられていないと思う。

日本人は日本軍について同じ歴史を学んでいると思っていたが、日本人の知人にインドネシアと日本の歴史のことを聞くとほとんどの人は「え、そうなんだ！そんなことあったんだ！知らなかった」と言う。最初にそう聞いた時、本当にびっくりした。日本人はインドネシアに来るまで、その歴史について全然知らないということを知った。

ある日、大学の先輩にこんな話を聞いた。昔日本人の留学生がジャワ島で日本軍が作った

洞窟へ行った時、そこにいるインドネシア人に「日本人か？あなたは開拓者なの？」と言われてたらしいのだ。それを聞いた日本人は「開拓者は昔の日本人です。皆が亡くなったので、皆の代わりに私は謝りたいのです。私は開拓者ではないですよ！」と答えた。その日本人の留学生の言葉に、もちろん私は賛成だ。今の日本人は昔の日本人とは違う。私はインドネシアが日本人に植民地にされた苦しみを祖母から聞いて知っている。教科書に書いてある歴史は全部本当かどうか分からないが、祖母の話を知ったら、信じたくないことだが信じるしかない。その時私は「日本人はひどい！」と思ってしまった。しかし、祖母が「現代の日本人は昔の日本人とはきっと違うよ」と言ってくれた。

その後、日本に来て実際に日本の文化や日本人の心などに触れてからやっと確認が出来た。日本についてより深く理解するために、私はこれまで社会ボランティアやキャンプや日本旅行など様々な体験をしてきた。日本の多くの場所を訪れたが、中でも印象に残っているところとして、平和学習プログラムとして行った広島があげられる。

このプログラムでは広島市内の数多くの原爆跡地を、ボランティアの先生の説明を聞きながら見学した。たとえば旧日本銀行広島支店、袋町小学校、そして原爆ドームなどだ。全てが原爆の悲劇の遺産である。爆風による被害の影響がどのようなものであるかが想像できた。8月6日。その朝は、ありふれた一日の始まり、のはずだった。だが原爆が落とされた瞬間、皮肉なことにその日は特別な日として歴史に刻まれることになった。広島は一瞬でなくなった。爆風や熱線によって数え切れない人々が亡くなった。生き残った人々も、無事というわけではなかった。そのような人々は現在も被爆者として心と体に大きな痛手を受け、苦しんでいる。このプログラムで被爆者の方の話も聞かせてもらった。その方は原爆によって目の前で家族や友達を亡くしたと聞いたが、目の前で両親が原爆で死亡したことを直接見るなんて私は想像することはできない。平和学習を重ねていくにつれ戦争の怖さが、だんだん分かってきた。

広島と長崎に原爆が落とされた時、日本軍はまだインドネシアにいたのだが、原爆を落とされた後すぐ日本に帰った。私はインドネシア人であるためこれまではインドネシアの立場でしか日本軍のことを捉えていなかったのだが、今回は日本側から考えてみた。戦争で家族から離れて、知らない場所まで行かされた日本軍の兵士も苦しみがきっとあったと思う。そして、広島と長崎に原爆が落とされたことでいっそう苦しんだと思う。植民地にされたインドネシアも、自国に原子爆弾を落とされた日本も、戦争での苦しみはきっと同じだったろう。

このプログラムには、インドネシア人と日本人だけでなく、中国、韓国、ヨーロッパの留

学生も参加した。私達は母語も国籍も違うけれど、戦争に対する気持ちは同じだ。そして、インドネシアだけではなく、中国も韓国も日本に植民地にされたことに対して怒りは沢山あったが、怒りだけでは何も終わらないと考えている。誰かが許していないなら、平和が達成されることはありえないだろう。また、私達は日本人に日本と他の国々の歴史のことをもっと知ってほしいと思っている。と言っても、もちろんその国を正当化して日本を非難するつもりは全くない。過去は過去であり、変えることはできないのである。ただ同じ現在を生きる人たちに、あれはどういうことだったんだろうとか、これからの日本と世界の国々との関係を考える上で、どうするべきかなどを考えてもらえるきっかけになればと思うのだ。

インドネシアではあまり平和学習がなく、日本の広島ではじめて平和について深く学んだ。この平和学習のおかげで、日本、中国、韓国、ヨーロッパ、そしてインドネシアから来た私達は、戦争のことを真剣に考えて、二度と起こさないようにするために努力しなければならないと改めて思うようになった。

日本に留学したおかげで私は日本語や日本文化について勉強するだけではなく、平和についても意識し始めた。そこで私は「平和のために何か出来ることがあるのか？」と考え始めた。そこから自分が出来ることを探し、様々なことに挑戦していきたいと思った。そこで、日本でいくつかの平和に関するプログラムに参加してみた。探してみると、日本では平和のために出来ることは山ほどあり、政府だけではなく、社会人や学生などが一緒に努力して世界の平和を支えることも出来るのだ。日本の平和活動は活発で、日本国内のみならず国際社会にも広がっている。これは本当に素晴らしいと思う。

先日平和について映像を作るコンテストを見つけ、挑戦したくなった。ビデオの内容は、周りの人を大切するという身近なことが平和に繋がる、というものにした。映像作成は初めてだったため、簡単なビデオ作品だったが、驚いたことに私と友達が作ったビデオは1次審査通過となった。そして私と他の5組のファイナリストは9月21日、世界平和記念日に発表した。このイベントで私も世界平和に貢献することができた。また他のファイナリスト達の作品を見たことによって、日本人や外国人から見る平和を理解できた。それぞれの国の問題に対して平和の意味も違うことも分かった。このイベントによって平和について色々勉強になった。

さらに私は「平和のために私たちが出来ること」というテーマで横浜のスピーチコンテストにも参加した。いくつかのテーマがあったが、このテーマを選んだ理由は例え小さなことでも自分が平和のために何ができるかを考えてみたかったからだ。最終的にスピーチの

内容は「自分が出来ることを探して、平和のためにやってみてください！」ということだった。実際に発表したとき、なんだかほっとした。全国大会には行けなかったが、自分が出来る精一杯のことが出来てすごく嬉しかった。

これまで経験したことは私に大きな影響を与え、成長させてくれたと思う。それと共に日本のこともより理解できるようになった。日本で生活してみて日本は誰もが安心して暮らすことができる、平和な国であると痛感した。そして日本人はなぜ平和について強い意識を持っているのか分かってきた。私が日本人について感心したことは沢山あるけれど、その一つが日本人の心である。日本人はおもてなしの心と礼儀正しさを持っていると思う。また日本人は「和」という文化を持っている。簡単に言えば、他の人に迷惑をかけないように、相手の気持ちを大切にすることだ。「和の心」は日本人の生活の中に自然と存在しており、日常生活にもよく見られる。簡単な例を上げると、時間を正確に守ることもそうだろう。もし時間を守らなかったら、当然相手に迷惑がかかってしまう。こうして日本では「小さな日常の平和」が毎日続けられているわけだと思う。この日本人の心を世界に広げることができるかと信じている。もし他の国の人々も日本人のように他の人の気持ちを大切にしたら、世界平和を守ることはきっとできるのではないだろうか。

今は祖母が言ってくれたような、現代の日本人の優しさを実際に再確認できた。これらの日本人の心を、インドネシアの人々にも伝えたい。そして、少しずつ「和」の気持ちを持ちながら、私が出来ることを探して、地球の上に平和を築きたいと思う。